



八千代市郷土歴史研究会
 会長 村田一男

事務局 八千代市勝田台 3-24-10 牧野方

5月17日(日) 5月例会
 学習会 13:30~16:00

- ・八千代市立郷土博物館学習室にて
- ・研究課題の確定及び担当の検討

4月5日(日)
平成21年度 定期総会と学習報告会

=報 告=

=お 知 ら せ=

6月12日(金)~13日(土)
見学旅行 テーマ「直江兼続と良寛」
 行先：新潟県南魚沼・国上・出雲崎方面

集合12日 午前6時45分 勝田台駅北口

☆コースと見どころ：

- ・第1日目：勝田台＝雲洞庵＝坂戸城跡＝新潟県立博物館＝与板城跡・徳昌寺・資料館＝弥彦酒屋＝弥彦温泉「四季の宿みのや」泊

Tel 0256-94-2010

- ・第2日目：弥彦神社＝国上寺五合庵＝信濃川分水記念公園＝寺泊アメ横＝良寛維宝堂＝良寛記念館＝勝田台解散

☆参加申し込みは、5月末日まで

- ・会費は28,000円を予定。会員外は別途資料代など500円いただきます。
- ・参加者は20名を予定しています。

***** ***** *****

7月12日(日) 7月例会

- ・午後1時～4時 八千代市立郷土博物館
- ・情報交換、研究分担・資料学習ほか打合せ

***** ***** *****

8月23日(日) 8月例会

- ・午後1時～4時 八千代市立郷土博物館
- ・情報交換、打合せ
- ・郷土史研通信 67号発行

定期総会 10:00~11:50

八千代市立郷土博物館にて、参加者数29名と委任状提出者8名で、規約に従い会員数64名の半数以上の参加で開催されました。

21年度も、平戸の調査を継続し、その中で古文書の探索、中台氏設置の道標の元位置への復元、水運の究明、睦村誌の熟読などを課題として取り組んでいくことが会長から提案され、了承されました。さらに出羽三山供養塔へ知識を深めるため、山形2泊3日の見学会を紅葉の頃に行うことなどが決まりました。(P8の事業計画を参照)

なお、予算額は615,245円、年会費は例年通り3,000円です。 (蔵・記)

学習報告会 12:00~13:20

平戸村古文書解読研究報告として、関和会員により「五人組帳」について、酒井会員により『平戸村一件訴答写し』にみる訴訟の流れについて、会員向けに報告と解説が行われました。

村上正覚院花祭りと釈迦像拝観 13:30~

総会終了後、正覚院を訪ね、釈迦御降誕花祭り灌仏会の法要と御開帳中の釈迦像を拝観しました。



正覚院 釈迦御降誕法要おねり 09.04.05

例会報告

2月例会 2月15日(日) 学習会

- ・八千代市立郷土博物館資料室にて
- ・13:30~16:00 24名参加
- ・「睦村誌」を読み、平戸村を知るヒントを得て、次の課題を考える。
- ・平戸村の旗本について-「幕府終焉まで平戸村を治めた旗本今村氏」
- ・21年度日程の調整

3月例会

銅版画「鳥羽小左衛門邸宅・千玉堂之図」

の現地を訪ねる

石田 広道

3月例会は15日(日)、本会村田会長に案内いただき、銅版画「印旛八景鳥羽小左衛門閑居千玉堂之図」と「千葉縣下総国印旛村船穂村鳥羽小左衛門邸宅」に描かれた場所を探訪し、印西側から平戸や佐山・神野方面を眺める経験をしました。

参加者は26名、八千代緑が丘駅前から30分位バスに乗り、探訪目的地付近の『和名抄』船穂郷に由来する校名の「船穂小学校前」停留所で降りました。

小学校入り口に船穂村道路元標と書かれた道路標がありました。年代は書かれていません。

そばの船尾交差点にも道標があり、「南 睦村 佐山ヲ経テ道習志野方面道」、「北 草深新田ヲ経テ泉新田 大森」、側面に「東 松崎ヲ経テ宗像村 吉田 佐倉方面道」、裏面に「大正十四年一月 船尾青年支団」と書かれていました。これはわが郷土史研が平成12年度の調査で刊行した『ふるさと再発見—八千代の道しるべ—』(平成13年3月発行) 所載の「イ01」の道標です。

この交差点を渡り、印旛沼に向かって5分位歩いたところで、右側の山道に入って登ると高台に円形状の畑があり、露の臺が盛りでした。畑の先端に行くとも崖になっていて見晴らしがよく、木の葉の間から畑や水田、遠くに平戸の台地が垣間見えました。この台地に小左衛門は千玉堂を建てお灸を行って人々を助けたそうです。

ここから富士を見る景色は絶景で、鳥羽小左衛門は「上に富士 下に印旛の 沼を見ん 白帆に

雪の かげぞうつれる」「浦風に 遠く見えける 雪の花 おつるは沼の 浪にあそばん」(釈文)の歌詩二つを残しています。

小左衛門は事業に失敗して千玉堂は人手に渡り、銅板画にある千玉堂の石碑は墓地へ移されたそうです。またここは城跡かもしれないとのこと。台地が人工的に削られたようなあとや帯曲輪のようなものがあるそうです。

その後、小左衛門墓地に行きました。墓石や石碑に辞世や詩歌が刻まれています。

もとの千玉堂から移された石碑の表には「南無阿弥陀仏」、裏面に小左衛門についてや創作した詩歌などが刻まれていました。



次に小左衛門邸宅を訪ねました。墓地からすぐの所にありました。邸宅銅版画に描かれた通りの長屋門と母屋があり、米蔵・小屋などの建物は残っていませんでしたが庭園跡がありました。土塁が残っていたので敷地7反歩(2100坪)の広さがわかりました。

その後、宗像神社に行きました。この神社には鳥居がありません。最初はあったそうですが、洪水で流されてしまったので、鳥居は設置しなくなったそうです。

その後時間も予定より遅くなりましたので、バス停船尾坂上に向い、バスが来るまでの間、近くにある天台宗東光院に行きました。こぢんまりした敷地に本堂と薬師堂、裏に墓地があり、南無阿弥陀仏の卒塔婆が多数ありました。

その後バスに乗り帰宅の途につきました。

「さらば・旧稲垣邸」

天保期の移築住宅解体さる

牧野 光男

八千代市郷土歴史研究会では「旧村の今」というテーマで「高津新田総合研究」を取り上げたのは平成14年と15年でした。その成果を『史談八千代』の27号と28号に発表した。その中で「旧家・稲垣勘右衛門の家相図から見る間取りとその復元」と題して詳細に報告させて頂いた。

あれから5年余、その建物が解体されるという話が伝わってきた。1月下旬には郷土博物館で行われている古文書同好会の「高津新田巡見」を行った時には、同家のご厚意でつぶさに見学させて頂き、明治38年ごろに建てられた昔の農家の旧家というものを実見させて頂いた。

その時にもこのまま消えてゆく建物に惜別の声もあった。



1月末には市立郷土博物館ではその一部の部材を保存するために、取り外す作業に入った時に、少しの手伝いをさせて貰いながらも、今では得難い部材の素晴らしさを感じたものでした。

特に母屋軒桁の両端に漆喰で造り出した「こて絵」があることが分かり、取り外すために分断した物を博物館へ持って行ってもらうことになった。そしてこの様なものが桁の両端に付いていたのを見た事がなかったように思えた。この「こて絵」が何を意味するものなのか？復元された姿が楽しみである。

解体工事は平成21年2月5日、先ず、茅葺の上に屋根下地を組み瓦状に加工した鉄板から

剥ぎ取られた。と同時に、構造に支障のない所は同時に進行した。



作業は工期が付き物である。再生部材として再利用もしたいが、解体にあまり時間を掛けられないようであった。それでも出来るだけの事を行っている様であった。床組が剥がされて大黒柱の基礎はどのようになっているのかと興味があった。

他の柱下は丸い自然石載っていたが、大黒柱は切り石基礎にきちんと据えられていた。

また、家相図で決めた間取りなので、特別にお祭りなどした跡などが見られるかと思っただけでは分からなかった。屋根組の解体のときに建前の神事に使われたヘイグシが出て来て、建築の年月が判明したことを後で聞いた。



解体始まって2週間ほどで、あのような家があったのはウソのように、きれいに整地されて静かに新しい工事が始まるのを待っている。

(21.2. 23 記)

雨の中 旧家(うち)を想うて 落ちる柚子
(みつを)

4月例会 4月29日

平戸周辺、佐山地区探訪の記

村杉スミ子

八千代市佐山地区を歩いてきた。初めて足を踏み入れる所で殆んど分からないだらけで歩いてきたが、新緑の中、気持の良い気候に誘われて穏やかな散策だった。

八千代緑が丘駅 13:35 発のバスに乗り平戸入口下車。参加者は 24 名である。

左の道に入り、まず「佐山貝塚」。約 3000 年前の縄文時代後期の貝塚だが、整地されて東西 140m、南北 100m、下総台地の 19m から 21m の高さにある。1974~5 年にかけての学術調査で発掘され、貝層はほとんどがヤマトシジミだそう。また石器や土器、土偶なども出土している。白い貝殻や縄文土器のかけらがそこかしこに見られる。周囲は農家なので保存状態が良いことから、これから何かまだまだ発見される予感がする。去年は佐倉の井野長割遺跡の説明を受けたが、また遺跡の内容も異なっているようだ。

道の端には可愛らしい双体道祖神はじめ多くの道祖神が立っていた。



森に向かって進むと「熱田神社」。ここは妙福寺とともに秋の彼岸の中日に獅子舞が行われ、市の指定文化財になっている。貴重な伝承行事である。現在市に残っている獅子舞はほかに勝田地区がある。勝田は昨年見学することができたが、佐山のも是非見学してみたい。

祭神日本武尊を祀る本殿にまわってみたところ、大きな彫刻が見られる。加藤清正の虎退治などが彫られているという。この地区は日蓮宗の信者が多いせいだろうか。

次に日蓮宗の「妙福寺」。高台に位置する大きなお寺。たくさんの石碑が並ぶ中に、「子安大明神」の石碑は文化 13 年の銘。おさわり石が置いてあった。

上に行くくと七面堂から眼下に広がる田園風景が心地よい。この場所は先月訪れた印西市船尾地区を今度は反対側から見るができる。あの千玉堂跡の木々の間から覗き見た八千代が懐かしい。



これよりのんびりと田舎道を歩き、農家に作られている石碑などを眺め、階段を上り、「稻荷大神」へ。ここからも印西市船尾地区が見渡せる。印旛八景の絵図の通りの地形が今なお残されている。この先のガソリンスタンド前あたりに曲がりくねった古道が残されている。すぐ前は神崎川にかかる神崎橋。この先は印西市となる。

本日の探索はここまで。これから八千代緑が丘駅までバスで移動、すでに午後 5 時である。

八千代市についてはまだまだ知らない、行ったことのない場所が多いので、ひとつずつ挑戦する機会を作ってまわってみたいと思いました。ご案内ありがとうございました。



千葉県郷土史フォーラムに参加して

佐藤二郎

第2回千葉県郷土史フォーラムは平成21年2月7日(土)、千葉県郷土史研究会連絡協議会の主催により千葉市内キボール15階第4会議室において開催された。

同協議会に登録されている郷土史研究会は15団体で、当日参加したのはそのうち13団体である。この15団体の概要については、その団体から事前報告の内容をまとめた「郷土史フォーラム参加団体の概要」として当日配布された。その内容は団体名、会長名、会員数、年会費、設立年および平成20年度の活動状況である。

当日は「酒々井町郷土研究会の近況について」と「史跡案内のボランティア活動について」(木更津みち案内人協会)の2団体の発表資料により、団体の詳細な活動状況報告が行われた。その後5分程度の時間で参加11団体の概要説明がなされた。

15団体のうちで、設立年の最も早い団体は昭和35年設立「松戸史談会」、同42年「富浦郷土文化研究会」、同46年「鴨川市郷土史研究会」そして昭和48年「八千代市郷土歴史研究会」となっており、直近設立は平成16年「至徳堂を知る会」(木更津市)である。

会員数でみると、最大の団体は「酒々井町郷土研究会」の190名であり、次いで「我孫子市の文化を守る会」130名、「松戸史談会」77名、「大網白里町郷土史研究会」63名そして「八千代市郷土歴史研究会」の61名である。他は30~11名の会員数である。

また同体の活動報告として毎年機関誌を発行しているのは、当歴研を含み「松戸史談会」・「東庄町郷土史研究会」・「山田郷土史研究会」の4団体のみである。隔年発行は「大網白里町郷土史研究会」、講座100回毎の記念誌発行は「雨城古文書同好会」であり、他は会員通信年4回発行(2団体)、休刊中(1団体)そして発刊のない団体が6団体である。フォーラムと言いながらお互いの情報交換も余り行われず、低調な会議であった。

郷土史ブームと言われる昨今で、県内には多くの「郷土研究会」の活動組織があると思われる。

しかし、まだまだ同連絡協議会への加入が少ないのは、それぞれ組織が単独に活動していて、横の連絡活動が余り重要視されていないのか、またこの連絡協議会の設立趣旨の徹底がなされていないのか、当日の参加からは知りうる事が出来なかった。

平戸の除隊記念道標

本人の揮毫が三山碑に

佐久間 弘文

「歩兵少尉中臺鴻亮除隊記念」の道標が平戸に2基建てられていましたが、本人の書による出羽三山記念碑が千葉市宇那谷の八幡神社にありました。



「鴻月中臺亮揮書」と刻された碑は昭和25年9月15日の建立で、同地区18人の同行者名が彫られ総高190センチ、千葉桜木町の持田石材店製作です。

「湯殿山」の山の字が象形文字になっている特徴があります。



私の狛犬研究

平塚 胖

今から5年ほど前、成田山新勝寺に初詣で行った。仁王門をくぐると両脇から大きな青銅製の狛犬が迎えてくれました。「へ～こんな立派な狛犬がいたんだ。」と思った。

それは私が郷土歴史研究会に入会して2年目でした。先輩会員から狛犬について研究している方はいないと聞いて、「よし、では俺が八千代市の狛犬を調べてみよう」と目標を立てスタートした。

八千代市の白地図を購入し、市内の神社をバケツ・タワシ・古布・巻尺を持って片つ端から訪ね、狛犬の台座の銘を調べ、像の大きさを測り記録し、写真を撮って整理し、約8ヶ月で一通りの調査を完了した。

その後も知人友人からの情報もあり、八千代市の65神社・45対の狛犬に会うことが出来た。

45対の狛犬の内9対が、鷲沼の広瀬音五郎と言う石工が作っている。この石工の作品は口元がふっくらとしていて、耳は横に広がっているデザインに特徴がある。等々、なかなか面白い。



さて、3年ほど前から「日本参道狛犬研究会」なるグループに参加している。これは落語家の三遊亭円丈師匠が主催し、平成8年に発足した会で偶数月に東京の池袋で例会がある。会員は百人以上いるようだが、例会には24、5人が常連で参加している。会員諸氏は狛犬大好き人間で、造詣も深く狛犬の博士ばかりである。例会では先輩諸氏の蘊蓄を只ただ聞き勉強している。

今後は習志野市・船橋市まで足を伸ばし、沢山の狛犬達に会う積もりでいる。

北総の子安塔とその由来を訪ねて

藤 由美

4月29日の平戸近辺のフィールドワークで佐山の妙福寺を訪ねた際、境内の子安堂で、子供を抱いた姿の素朴で美しい子安塔を拝観できました。

文化13年(1816)「南無子安大明神 佐山村女講中」の銘がある光背型の子安塔で、子安観音の像容をもつ石像として、八千代市内では米本の林照院の文化11年銘に次ぐ2番目に古い子安塔です。



数年前から高津新田の諏訪神社の子安塔や高津の観音寺の十九夜塔群に惹かれて、近辺の女人信仰の石造物について調査し、『史談八千代』30号に「高津と八千代市内の女人信仰に関わる石造物の変遷について」をレポートしました。

その後、2006年に刊行された『八千代市の歴史近代・現代Ⅲ』の市内石造文化財の一覧表により、昭和期までの女人信仰の石造物の全容を知ることができるようになりました。

この一覧表から女人信仰関連の石造物を集計し直してみると、石祠、手洗い石や道標なども入れて全部で286基、うち半数が江戸時代の建立です。そしてその6割が如意輪観音像を刻んだ十九夜塔でした。子安塔は、文字のみの石祠が、文化文政期から子安観音の像容の光背型に変わっていきますが、双方合わせても3割にとどまります。

女人講の信仰は時代とともに変化し、江戸初期の二世安楽を念ずる念仏講から、女人成仏を祈願する十九夜講へ、さらに江戸後期には安産・子育てのご利益を求める子安講になり、近代はリクリエーション的な場ともなっています。

その反映として、明治以降になると、そのほとんどが子安観音の像容の子安塔となり、密教的な如意輪観音像は見られなくなるようです。

さてこの一覧表をもとに、市内各地の子安様を拝観して回ってみましょう。

おすすめなのは、島田台長唱寺の子安堂。市内随一の美しく華麗な子安塔が2基（1840・1889）迎えてくれます。



島田台長唱寺の子安大明神（右 1840・左 1889）

島田の珍しい子安釈迦像（1801）も子安神社が改築され、拝観しやすくなりました。子を抱く像として、この子安塔は市内最古です。

愛らしいのは、吉橋寺台公会堂の子安観音3基（1842～1914）でしょう。



東福院の3基（1856～1881）は、品格ある美しさがあり、桑納の威光院や大和田の円光院の子安塔もユニークで、バライティに富んでいます。

また数で勝負するなら下高野福蔵院。如意輪観音像が16基、最新2007年までの子安塔が13基、新旧30基がずらっと並ぶ姿は壮観です。



さて、八千代市での子安観音の像容の子安塔は、米本の林照院の文化11年（1814）が初出ですが、

その像容の由来を明らかにしたくて、八千代市の周辺に広げて子安塔を調査してみることにしました。

まずは、房総石造文化財研究会作成の佐原市・成田市・酒々井町・佐倉市・四街道市・印旛村の石造物調査表をもとに、造立順に子安塔を見てまわることになりました。その多くは寺社境内だけでなく、道の辻、廃寺跡の集会所、山の中の祠、畑の中の墓地など探すのに苦労するところばかり。それらの中に、母子像を彫り込んだ子安神の石祠がいくつかありました。

子安塔研究第一人者の榎本正三氏の著作によれば、子安観音の像容の起源として、利根川下流域を中心に、如意輪観音像を刻む十九夜塔が盛んに建てられる中で、子を抱く如意輪観音の姿が創りだされるとのことです。

たしかに17世紀後半から佐原市中心に利根川下流域では、如意輪像の十九夜塔がさかんに建てられます。この地域はその後も伝統的に如意輪像の十九夜塔を造り続けるのに対して、酒々井町では、元文5年（1740）の柏木新光寺墓地、延享元年（1744）下岩橋大仏頂寺で、子を抱く子安神像の石祠が先行して現れてきます。しかもこれらの石祠の母子像は2児が戯れる微笑ましい姿なのです。

同じく酒々井町で、宝暦元年（1751）尾上住吉神社に如意輪観音が子を抱く姿の子安塔も生まれますが、こちらは思惟の憂いを含んだ表情で、ベースとなる宗教的な違いを感じさせます。

子安像のある石祠は、数は多くありませんが、その後も成田・佐倉・白井市で継続して見られ、さらにこれらは、袖ヶ浦市百目木の元禄4年（1691）銘の子安大明神像に遡ることができます。



百目木の子安大明神

子安観音の像容は仏像の儀軌になく、江戸時代の女人講と石工の発意で生まれた石仏でした。

十九夜講の如意輪観音に子を抱かせるきっかけになったのは、上総地方から印旛沼・利根川方面に伝わった石祠の中の楽しそうな子安神像ではないか、私はひそかにそう思っています。

平成 21 年度 事業計画

9月6日(日) 於:八千代市立郷土博物館
午前: 拡大役員会 調査内容・展示作品決め
午後: 例会 機関誌編集等打合せ(原稿締切)
三山七年祭りビデオ観賞

10月4日(日) 於:八千代市立郷土博物館
例会 全会員で『史談八千代』34号校正
文化祭展示作品の企画調整

10月18日(日)~20日(火)
出羽三山現地学習会 会員外参加者を募集
現地学習を通して「出羽三山供養塔」を考える

10月28日(水) 於:八千代市立郷土博物館
校正作業 編集委員で『史談八千代』最終校正

11月14日(土) 全日 於:八千代市立郷土博物館
共同作業 全会員で文化祭展示作品制作

11月21(祝)~23日(日)
三山七年祭の見学

11月25日(水) 於:八千代市立郷土博物館
共同作業 三山七年祭展示写真パネル作成

11月28日(土)~29日(日)
市民文化祭展示 於: 勝田台文化センター

12月13日(日) 於:八千代市立郷土博物館
例会 学習会と忘年会

平成 22 年

1月7日(木) 見学会: 亀戸七福神めぐり

1月13日(水) 午後 於:八千代市立郷土博物館
拡大役員会 次年度事業打合せなど

2月21日(日) 午後 於:八千代市立郷土博物館
例会 次年度事業の予備学習
「郷土史研通信」69号発行

3月14日(日) 見学会(歴史散歩)

6月5日(金) 14:40~16:10

特別講義: 地域研究から見える八千代の歴史Ⅱ
おもしろ石造物講座= 狛犬と子安塔

主催: 東京成徳大学文学部日本伝統文化学科
房総地域文化研究プロジェクト

会場: 東京成徳大学八千代キャンパス 101 教室

講師 (当体会員) とテーマ

平塚 胖 「八千代市の狛犬たち」

藤由美 「八千代とその周辺の子安塔」

聴講ご希望の方は、下記の方法で、大学にお申し込みください

①FAX 047(488)7104

②電話 047(488)7103

③はがき 〒276-0013 八千代市保品 2014
東京成徳大学房総地域文化研究プロジェクト

④Eメール tsu-2001@tsu.ac.jp

総会で、年会費は 3000 円に決まりました。

会費をまだ納めてない方は、次に参加される例会の際にお納めください。

なお、お休みする方の会費の振り込み先は下記のとおりです。

「八千代市郷土歴史研究会 代表 園田充一
千葉銀行勝田台支店 普通 041-2254442」

☆ 編集後記 ☆

村田会長が、八千代市立郷土博物館館長の任を3月いっぱいまで退職されました。

お若いころから、高校の史学教育と郷土史研究に活躍され、千葉県や八千代市の文化財行政にも大きく貢献されてこられました。

今後は、公務の重責から解放されて、本会の活動がより楽しくより豊かになるよう、末永くご指導いただければと思っております。

長い間、本当にご苦勞さまでした。

編集担当(蔵) sawarabi-y@nifty.com